

1年2組

 おおきくなあれ わたしのあさがお
 ～たねをうえよう～


かわいい

自然体験園で遊ぶ中で見つけた種を育てようとする人、家から種を持ち込んで育てようとする人がいました。それを見て、「私も種がほしい」「色がきれいだから、あさがおがいい」「幼稚園ではあさがおをみんなで育てたから、今度は自分で育てたい」そんな声が上がります。そうして、あさがおの種を手にした子どもたち。「ごつごつ」「石みたい」「水色の花になってほしい」「かわいい」そんな言葉が生まれていました。種を見つめ、「写真を撮りたい」と撮影する姿、自由帳にスケッチを始める姿も見られました。目の前のあさがおの種をよく見て、記録に残したいと考えた子どもたちが、自ら観察を行っていったように思います。

その翌日、本を見てあさがおについて知ったRさんとHさんが、種を一晩水につけると芽が出やすくなるとみんなに伝えました。その話を聞き、ほとんどの人が種を水につけました。あさがおの本を自ら手に取れること、知ったことを伝えられること、やってみたいと思えること、すごいなと思いました。あさがおに「育ててほしい」と願う思いも感じとれました。

さらにその翌朝は、水につけた種が気になって、ランドセルを背負ったまま覗き込む姿がありました。「ぶにぶに」「色が変わった」「黄色いのが出てきた」「大きくなっちゃってる」「割れてる」「開いてきた」「皮がはがれてくるんだよ」「だから水に入れると早く芽が出るのか」と、種をじっくり見た子どもたちは、水につけた種の変化にすぐ気づきました。働きかけたことに対する働き返しがあったことで、さらにあさがおに引き込まれていったのではないかと思います。

「早く植えたい」と思いを高める子どもたちでしたが、「本当にできるのかな…」というIさんの言葉を紹介すると、「分かる。育たなかったら悲しい」と共感的な言葉が語られました。続けて「何に植えればいいのか？」「どうやって植えるのかな？」「土はどのくらい？」「水はどのくらいあげればいいのか？」と、よりよく育てるために必要なことを考え始めた子どもたち。本で調べたことや友だちの話をもとにして、自分の決めた方法で種を植えていきました。多くの子がポットに植える中、「アサガオが広がるようにもっと大きいのに入れたい」と校内のプランターを探し出し、教頭先生に使ってもよいか聞きに行く人たちもいました。植えたあさがおの置き場所も学級園や教室、自分の机の上とそれぞれです。あさがおが、どんな働き返しをしてくるのか、一緒に見つめていきたいと思いました。

もっと知りたい あさがおのこと



最初に芽が出て、背が高く伸びていたAさんのあさがお。一本は抜けてしまい、一本は枯れてしまいました。突然のことでした。Aさんと同じように自分の机の上にあさがおを置き、近くで生長を見守っていたIさんにも似たことが起きます。一本は抜けてしまい、一本は茎が折れて枯れてしまいました。うまく育たないのは二人だけではありません。芽が出ない人が半数近くもいました。

Sさんの「なんでだろう？」から、育たないわけについて話し合いが始まりました。「栄養がない」「水のあげすぎ」「土が固まって種がギュウギュウにしめつけられているから、出られない」「深く植えすぎで根が曲がってしまう」「浅く植えすぎで抜けちゃう」「外のあさがおは葉っぱが大きくなっている。中のあさがおは太陽を探して茎が伸びているんじゃない。それで折れてしまう」…。やがて、どうすればあさがおが育つかについて、語られていきます。「植えるときの穴は、指の1番目の線だったはず。やっぱりこれをやらないと」「土はフワフワの土。植物用の土があるよ」「太陽にあてると、それが栄養にもなって育つと思う」「水は、やらない日があった方がいい」「暑すぎの日は水が必要。寒すぎは育たない」「天気でのどのくらい水の量



がちがうのかな。調べたい。お花屋さんにも聞きたい」…。解決策が語られる中、Kさんは、「自分が育てるから、自分が好きなのにした方がいいよ。そうしたい」と話しました。

子どもたちは、目の前で起きているあさがおからの働き返しを受けて、「育てる」ということにのめり込んでいっているように見えます。理想と現実のズレ、自分と友だちのあさがおの育ちのズレから課題を見だし、自分で選び取っていこうとする子どもたちの姿、あさがおにより本気になっていく姿があったように思います。

授業後、「楽しい」と言いながら板書を見て自由帳に記録をまとめたり、家で調べてきて発表したりする姿もありました。あさがおのことが自分の中でずっと続いているのだと思います。調べてきた人の情報により、水やりは朝夕ということ、25℃くらいが発芽に適切な気温だということ、肥料が必要だということも見えてきました。

意見交流や発表を経て、「花屋さんの話も聞いてみたい」「やり直したい」と考える子どもたちが多くいます。花屋さんの話を聞き、改めてあさがおに向き合っていきたいと思っています。

がんばらなきゃ

「あさがおのことを聞きたい」という子どもたちの願いを受け、ガーデンアドバイザーの柳澤三千子（みちこ）さんが学校に来てくださいました。柳澤さんは、「育てるときは、育てるものの特徴を知らなきゃいけないよ」と、あさがおのつる性について話してくださり、植え方・育て方について一緒に実践しながら教えてくださいました。

真剣な目でメモを続けたSさん。それを見て自らもメモを書き始め、それを見て種植えをするTさん。柳澤さんが葉の話をする则自分のあさがおの葉を一枚一枚見て、土の話になると自分の土を触って確かめるKさん。「種植えでは水をたっぷり」と聞いて大きなじょうろや計量カップで何度も水をやるTさん。「フワフワに」と聞いて一度固めた土を柔らかくしようとポットに手を入れるJさん。「2、3回水を入れる」と聞いて再度水を入れ「種を入れた後はやさしく」と聞いて慎重に水を入れたYさん。培養土を袋に入れてじっと見つめるYさん。「びっくりした。最初の葉っぱと、そのあとの葉っぱの形が違ったから」とRさん。「『育ってね』ってあさがおに言うといいよ」「がんばらなきゃって思った。37人のあさがおが咲くように」とAさん。「柳澤さんがすごい。あさがおのことをたくさん調べている。私も柳澤さんみたいになりたい」とRさん。

柳澤さんと出会い、素敵な姿をたくさん見せた子どもたち。その背景には、最初に育てたあさがおの存在があったように思います。育った人と育たなかった人がいて、その中で考え、感じてきたことがつながっているのではないかなと感じました。

もう一回、種植えたい

「先生、もう一回、種植えたい。種ちょうだい」そうやってきたのは、HさんとMさんです。毎日あさがおの様子をチェックし、「まだ出てない」と、なかなか芽が出ないことを心配していた二人。「このままじゃずっと芽が出ないかもしれない」きっとそう思って、行動を起こしたのだと思います。

Hさんは、5月に1回目の種まきをした際、「私は植えなくていい」と言っていました。植えるよりも遊びたいという思いも話していました。率直な思いを話せるHさん、すごいなと思いました。その後、家の方と話したことで種を植えようと決めたHさんでした。

しかし、今回の2回目の種まきでは、芽が出ないことを心配し、Hさん自ら「種を植えたい」と言ってきました。1回目の種まきのときとは違ったHさんの姿に、驚き、とてもうれしくなった自分がいました。Hさんの内で、あさがおに対する思いが確実に変わっていることが分かりました。1回目の種まきで種を植えてみたことで「育ってほしい」という思いをもったのかもしれませんが、芽が出てこないということから柳澤さんと出会い、再度種まきをしたことで、「育ってほしい」という思いをより高めたのかもしれませんが、あさがおに対して一生懸命になる仲間を感じていたことも、きっと影響しているはずですよ。

繰り返しかかわったり、立ち止まって考えたり、そのようにする仲間を感じたりする中で、かける思いが変わっていく、行動が変わっていくということ、Hさんの姿から改めて学ばせてもらいました。

